



第20号

発行
 県の里まちづくり推進協議会
 県主地区自治連合協議会
 県主公民館
 県主地区社会福祉協議会

平成30年度井原市がはばる地域応援補助金事業
県の里まちづくり推進協議会まちづくり講座・県主公民館生涯学習講座

県の里まちづくり推進協議会

はぐくみの里部会 佐藤 隆

2月23日(土)、県主公民館において、県主公民館と県の里まちづくり推進協議会の共催で、生涯学習講座・まちづくり講座が開催されました。

今回は、事前の打合せから県主地区自治連合協議会、県主地区社会福祉協議会、井原市消防団県主分団とも連携し、講座開催の準備をし、共同で開催することができました。今後に向けて、大きな前進だと思っております。

今回の講座は、防災危機管理者・坂田善穂先生を講師としてお招きし、『県主地区の防災を考える』というテーマで、ご講演をお願いし

ました。先生は、防衛大学校をご卒業後、34年間陸上自衛隊空挺部隊で勤務をされていきました。空挺部隊では、各種危険な訓練に従事され、第8師団幕僚長として、鳥取西部地震、水俣水害、阪神大震災、各地の森林火災等の災害派遣に携わり、危機管理の現場を指揮されてきました。

講演では、これらの経験を基に、災害時にはどのような行動をすることが必要なのか、分かりやすく説明がありました。また、昨年7月に発生した西日本豪雨災害を検証するとともに、県主地区の危

険な場所を写真で示され、具体的な対応策について、受講者の知りたいことを教えてくださいました。

講演後の質疑応答では、当地区防災士の方より、要支援者の個人情報管理等、踏み込んだ質問もあり、防災について、参加者の本気度を伺うことができました。今回も、他地区まちづくり関係者、井原市役所関係者もご参加くださり、有意義な情報交換の場にもなりました。この講座で学んだことを地域内の各種団体とともにまちづくりに活かし、これからの地域課題を解決していくために共に頑張っていきましょう。



かかし広場

まちづくり 岡本綾子

毎年、かかしコンテストの会場となっている広場を、それ以外の時季でも地域の子ども達が遊べる場所にしてはどうかとのご意見をいただき、去る2月16日(土)に、この場所を「かかし広場」と名付けて整備を行いました。

入口の両脇には、県主地域資源保全協議会からいただいたハンジーやビオラの花壇を作り、少し入った所に、古タイヤを積み重ねて固定し、土で踏み固めた遊具を作りました。春には鮮やかな花が咲き誇り、楽しそうな子ども達の笑い声が響くことでしょう。



成果発表

「まちづくり活動

6年間の歩み」



県の里まちづくり推進協議会 会長 岡田章文

平成30年度「協働のまちづくりフェスタ」が去る3月16日（土）アクティブライフ井原を会場に開催され、各地区の関係者多数が参加して、盛会のうちに終了しました。

まちづくり活動の成果発表に続き、意見交換会、締めくくりに前高知県知事の橋本大二郎氏を講師にお迎えし『新しい時代を前に問われる「地方」の力』と題してまちづくり講演会がありました。この行事は協働のまちづ

くりを進める井原市内の各地区が活動成果を発表し、相互の情報交換をする場として開催されています。

今回は、がんばる地域応援補助金を受けて活動する団体として、木之子地区と県主地区が担当して成果発表を行いました。

私たちは、平成18年から協働のまちづくりに取り組み、組織設立後、平成25年からの「6年間の歩み」その成果と今後の課題について論点をまとめ、協働のまちづくりを進めて行く上で

の意見を舞台上で発表しました。

4団体で発行している広報紙「みんなの県主」の発行に至るまでの経緯や、これまで県の里まちづくり推進協議会と県主公民館が共同開催していたまちづくり講座では、地域が一体となつて防災・減災に取り組むために、地域内の各種団体が共催して「防災講座」を開催したことなど、地域が一体となつてまちづくりに取り組む必要性を説明しました。

少子高齢化社会に対峙して地域内のできることで、自然災害への対応など、地域内の1団体だけでは解決で



きない出来事「地域課題」は、その解決のためには地域が一丸となつて取り組む必要があります。

このために、役職や年齢・性別・地位に関係なく、自由に意見を交換することが出来る場「円卓会議」の必要性についても提唱しました。

喫緊の課題としては、自然災害への対応「防災組織の設立」があります。皆さん、住みやすい・住んでみたい県主を目指して、ともに頑張りましょう。



県の里まちづくり推進協議会 30 年度事業のまとめ

平成30年度

がんばる地域応援補助金

県の里まちづくり推進協議会

広報紙発行事業



【目的】
各種団体発行の情報紙の統合と情報の一元化並びに労務・経費の節減

【事業内容】

地域情報全般を一つの紙面で提供。また、SNSやホームページなどでリアルタイムでの情報発信や過去の情報も掲載いつでも閲覧できるよう行っている。

【良い点・工夫点・課題など】

情報が一本化され、紙面も一段と見やすくなり、経費面・労務面においても効率化され地域に定着してきた。

「ふるさとかかし」「かかしコンテスト」による地域活性化事業



【目的】
当地域の大きな課題である、衰退する農業を考える機会づくり

【事業内容】

- ①かかし祭り(かかしコンテスト)の実施
- ②「ふるさとかかし」づくり講座の開催
- ③「ふるさとかかし」サミットへの参加



【良い点・工夫点・課題など】

継続的に開催することにより、子どもから大人まで農業について考える良い機会が増え地域への関心が高まってきている。また、2014年から実施している「かかし祭り」は地元産の食材や加工食品などの販売を行い、まちづくり事業の運営資金として活用している。

6次産業地元の一番開発事業



【目的】
農業振興の方策探し、事業の具体化



【事業内容】

サツマイモを使った、焼酎造りに取り組み、特産品としての位置づけをする。また、焼酎づくり以外にもサツマイモをポテトチップスした『夢チップス』を生産販売を行う。

【良い点・工夫点・課題など】

「サツマイモ」の栽培をまちぐるみで行い、安定した生産体制の構築と「芋焼酎 里の夢」をブランド化への推進をしていく。また、焼酎と一緒に楽しめる「夢チップス」の推進を図る。

人材育成事業

【目的】
主体的に行動ができる人材育成



【事業内容】

鳥取県西部地震、水俣水害、森林火災、阪神大震災等、多くの被災地で危機管理の現場を指揮された防災危機管理者 坂田善穂先生

【良い点・工夫点・課題など】

防災・減災に向けたまちづくりの方向性を考える講座

命のペットボトル事業



【目的】
「ため池」に落水しても、駆け付けた人が救命する救命浮環を製作

【事業内容】

「ペットボトル」を活用した救命浮環を製作して設置と看板製作



【良い点・工夫点・課題など】

あってはならない不慮の事故ではあるが、いざという時に機能するように定期的なメンテナンスを実施していく。

ふるさと便利屋さん事業



【目的】
高齢者世帯や一人暮らしの世帯の軽微な作業を肩代わり

【事業内容】

- 電球・蛍光灯の交換
- 小さな工事
- 草刈り・簡単な剪定
- 支障木の伐採

【良い点・工夫点・課題など】

県の里まちづくり推進協議会の根幹事業としていきたい。

第 5 回 TOMO 食 in 県主

カフェスタッフ 佐藤聖子

2月23日、第5回TOMO食in県主が公民館分室で開催されました。

始めに、「井原語りの会わ・わ・わ」の皆さんに昔話を聞かせていただき、童心に返りました。

その後、楽しみにしていた食事会に入りました。今回のメニューは、ちくわ(地区の輪)入りカレーライスと野菜サラダ。これは、朝早くからボランティア約20名が心を込めて作ったものです。ホッとカフェでの絆が生きているのでしょうか。



チームワークと手際の良さで、百食を仕上げました。他愛のないおしゃべりをしながらの会食は格別なのか、ほとんどの方が完食。「おいしかった。」と好評でした。参加者は、約80名。分室は満室で温かかったです。若い世代の参加が少なかつたのが残念でしたが、これから、皆さんの笑顔の輪が広がっていくことを楽しみにしています。

大谷山三十三観音巡り

社協 鳥越千恵子

3月17日、恒例の大谷西国三十三観音巡りが、早朝よりの雨で足下の悪い中32名の参加者を得て開催されました。

午後1時金剛福寺境内に集合、藤井会長が参加者へお礼を兼ねての挨拶の後、井上ご住職の導師のもと、境内の「粉河寺」千手観音にお参りし、観音巡りの安全と参加者全員の健康を祈願し般若心経を唱え出発しました。

二番札所の金剛宝寺までは急な山道で、日頃の運動不足を痛感しながら登りました。平坦な道のりでは、道端の草花、野鳥のさえずりに少しゆとりも出て春の息吹を感じ、参加者同士の会話も楽しみながら歩きました。

一番難所の急な坂道では、連日の雨の影響で足下も悪くすべらない様に踏ん張りな

がら下り岩瀧観音へ到着。ここまでの無事に感謝しながら皆で唱える般若心経が静かな谷間に響き渡りました。途中、春雨や突風に吹かれたりしましたが、全員無事に六道様へ到着しました。最後の般若心経を唱え解散しました。

観音巡り開催にあたり道路の整備をしていただきました社協関係者・六和会の皆様、ご接待をいただきました金剛福寺様、本当にありがとうございました。

来年も更に多くの方に、県主の自然にふれる観音巡りに参加していただきたいと思ひます。



井原市操法訓練大会

第三位入賞

県主分団長 三嶋和也

去る3月17日、第44回井原市消防操法訓練大会に出場しました。昨年度優勝分団ということで、全分団の注目を浴び、過大なプレッシャーの中、日頃の訓練の成果を十分に発揮してくれました。我が県主分団は小型ポンプの部で第1出走でした。当日は朝から雨が降って、後半の分団とはグラウンドコンディションが違う中での操法でした。足のぬかるむ悪条件の中ではありました。基本に忠実な操法を披露してくれました。結果は、昨年同様とはいきませんでした。第3位に入賞する事ができました。悪条件の中、



県主分団の意地を魅せてくれた選手に感謝いたします。地域の皆様には、これからも消防団活動に、ご理解とご協力をお願い致します。出場選手は以下の通りです。

指揮者 ▼ 佐藤充展(第1部)
1番員 ▼ 平田捷也(第3部)
2番員 ▼ 藤井政慶(第1部)
3番員 ▼ 岡本好範(第1部)
操作員 ▼ 佐藤和哉(第3部)

県主地区社協理事研修

社協 藤井 護

平成30年12月15日(土)、晴天に恵まれたなカ理事研修を実施しました。

目的地は高梁市松原地区で、人口700人程の小規模の地域でした。当地区は、標高400から500Mの高原地帯に337世帯が点在し、高齢化率は53%を超えており、2人に1人以上が65才以上とのことでした。

松原地区では、平成6年より福祉委員制度が始まり、「地域福祉のカギを握るのは福祉委員」という考えを持って「やまびこプラン」という小地域福祉活動計画を作成し、これに沿ってしっかりした活動が展開されていることはすばらしいと思いました。これは県主地域でも見習いたいものです。

また、松原地区社協は、平成27年度に県主地区社協へ来られ、「ホッと息ませませんか?カフェ」について勉強を

され、平成28年7月に「やまびこカフェ」を開設し、研修の成果をあげられるなど、県主地区社協との縁を感じています。

さらに、昨年7月の豪雨災害では、小規模ながけ崩れが多発、主要道路が崩落等で通行止めとなり、2日間孤立状態が発生、また水源地の水没で1週間の断水も起きたとのことでした。

このような災害時に活動したのは、民生委員と福祉委員ということでした。その時、避難行動要支援者確認を実践し、概ね機能したと伺いました。災害時避難訓練も毎年1回実施し、福祉委員が町内会長を通じて全世帯にお知らせと安否確認がいかんにか早く確実にできるかを訓練しておられます。県主地区でも自治会を中心に自主防災組織をつくろうという機運が高まって来ており、早くこの取り組みが実を結びます。研修の様子は6頁に掲載しています。

県主のわだ い



1/3

県主地区新年互礼会

1/26・27 まなびフェスタ in いばら



2/24 鳥羽踊り子ども伝承教室研修旅行



3/10 鳥羽踊り子ども伝承教室閉講式



2/10 ふれあいセンター祭り展示



12/15

社協理事研修

高梁市松原地区にて





1/15

盛大に開催されたとんど集会



とんど集会

六年 井元陽菜

とんど集会で一番心に残ったのは、おもちを焼いたことだ。理由は、少しずつしか焼けないけど、ちょうどよく焼けたとき、とてもうれしいからだ。
おもちを焼くのは、とてもあつかった。棒は長いので、遠くをもてるけれど、遠くを持つととても重かった。てこの学習のときのようにだった。
それでも何とか焼き終えた。志歩さんのおじいちゃんが「もう、焼けとるよ。食べておいで。」と言ってくださったので、おもちを食べた。自分で焼いたおちは、とてもおいしくて、暴飲暴食のようになりかけていた人もいた。
小学校生活最後のとんど集会。いろんな体験をした、とても楽しい集会だったと思う。私たちが卒業しても、ずっと続けてきた、このとんど集会を残していつてほしいと思う。

とんど集会

六年 三嶋陽土

ぼくは、昨日とんど集会をした。最初に、もちつき体験をした。ぼくは本気でもちをついた。まるで野球ボールのようにたたいた。
次に、やぐらに火をつけた。ぼくは、火をつける係だった。火はとてもあつかった。火はいっしょで燃え上がった。高くまい上がるはい。みんなつかまえようとした。その後せんざいをたべた。ぼくが並ぶと、「陽君は、いっぱい食べられるじゃろ。」と言われて、いっぱいがれた。とてもうれしかった。せんざいは、とても温かくて、体がぬくもったのでよかったです。とてもおいしかったです。
最後に、もちを焼いた。焼くのは、とてもむずかしく、とても熱かった。ぼくのもちは、まっくらになつた。なぜなら、はいの中に入れたからだ。
もう一回とんどをやりたいたと思った。



備中協働ゼミ2019開催

広報委員 安藤直樹

平成31年2月3日(日)に備中県民局会議棟で「備中協働ゼミ2019」が開催されました。参加団体は「井原市」「県の里まちづくり推進協議会」「笠岡市」「駅前コラボin笠岡」「高梁市」「NPO法人岡山県介護支援専門員協会高梁支部」「新見市」にのみライスカレー協会」「備中県民局」「ココホレジャパン株式会社」の5団体の参加で、テーマは「より多くの人に参加してもらうための作戦」と題して各団体の発表の後、助言者として中国学園大学・中国短期大学/住野好久副学長を交え、ワークショップ形式で意見交換会を行いました。イベントへの参加者を増やすためには何が必要なか?また、主催者側のスタッフとして



参加してもらうにはどうすればいいのかな?なブルに分類された班で話し合い発表を行いました。意見交換をする中で、同じような悩みを持ち困っている現状が見えた気がします。年を重ねるごとに減るスタッフや、それに伴いモチベーションが低下していくなど、今後の運営に危機感や悩みを持ちながら参加しているということでした。県の里まちづくり推進協議会でも同じように感じています。3年後、5年後の県の里はどうなっているのでしょうか。地区や世代をこえ、自主的にまちづくりに参加し、未来ある子どもたちに

素晴らしい県の里を残していけるよう頑張っていきたいと思います。

県主公民館 造成工事のお知らせ

県主公民館建設推進委員会

3月12日、公民館新築の造成工事について入札が行われました。

◎施工業者多賀建設株式会社(岩倉町)

◎工事期間

2019年3月15日～2019年9月13日

工事期間中は、工事車両の通行・騒音等地域の皆様には、ご迷惑をお掛けしますがよろしくお願ひいたします。

また、工事車両の出入り口が、分室前の駐車場を利用しますので、駐車場所が狭くなること予想されますのでよろしくお願ひいたします。

ご寄付ありがとうございました

県主地区社会福祉協議会へ

岡田佳代子様(亡夫)

岡田 真吾様(亡母)

藤井 幹雄様(亡父)

紙面をもってお礼にかえさせていただきます。

出生おめでとう

ありがとうございます

尾山浩三・奈津江さん

男の子 幸汰朗ちゃん(11月14日生まれ)

国末充恒・明子さん

男の子 晴臣ちゃん(1月15日生まれ)

編集後記

広報「みんなの県主」では、掲載してほしい記事などを募集しています。問合せは公民館まで

編集委員

岡田章文・山本俊和・安藤直樹・森下和美・鳥越千恵子・森本峰子・岡田 忍



県の里まちづくり推進協議会

県の里まちづくり推進協議会のページで「みんなの県主」が閲覧できます。[ホームページ]http://www.agatanosato.jp